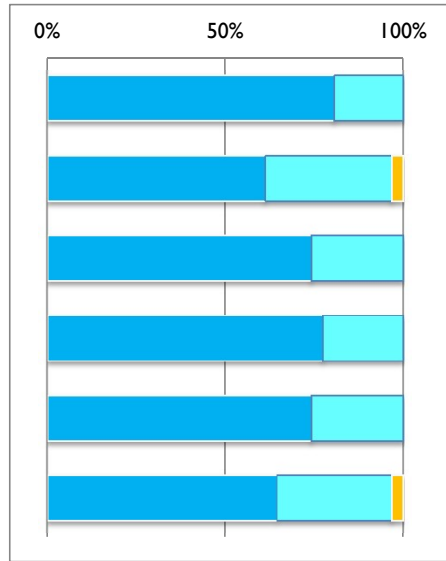


令和2年度甲西中学校学校評価（12月実施） 教職員自己評価の集計結果

4： そう思う 3： ややそう思う 2： ややそう思わない 1： そう思わない

1 学校経営・組織・安全管理

評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今回	前期
1 学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づき、学校運営がなされている。	25	6	0	0	3.8	3.8
2 教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	19	11	1	0	3.6	3.5
3 教育活動が組織的に計画され、協力体制のもとで、実施されている。	23	8	0	0	3.7	3.7
4 校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理(整備・保全)している。	24	7	0	0	3.8	3.9
5 事故、事件、災害に対して迅速かつ適切な対処ができるようマニュアルを整備し、リスクマネジメント、クライシスマネジメントを行っている。	23	8	0	0	3.7	3.8
6 個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。	20	10	1	0	3.6	3.7

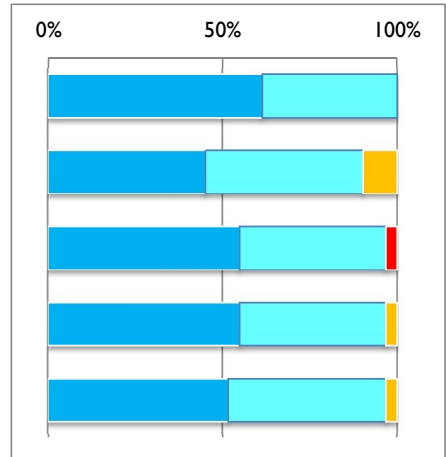


1 学校経営・組織・安全管理についての自由記述

- 朝の打ち合わせがなくなり、午前中のみ勤務という方が増える中、情報共有の時間確保が難しいと感じています。
- 全体の協力体制が作られていると思う。
- 学校教育目標を基に学校経営がなされていると感じる。コロナ対策で消毒用アルコールやエアコンなどを対応して頂きありがとうございます。
- コロナ禍で一人一人の安全に対する意識が向上し、増えた仕事にも当たり前に対応して頂いております。他人まかせにすることなくしなければならぬことを自主的に繰り返し行っていただいております。

2 教育課程・教科指導

評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今回	前期
7 学習指導要領に基づき、キャリア教育の視点も踏まえた教育課程が編成され、それに基づいた教育活動が行われている。	19	12	0	0	3.6	3.7
8 生徒の学習意欲と学力の向上のため、校内研究の柱である少人数による学び合いを取り入れた授業改善に取り組んでいる。	14	14	3	0	3.4	3.2
9 評価基準を明確にし、生徒の学習状況を分かりやすく、適切に評価している。	17	13	0	1	3.5	3.5
10 3年間を見通す中で計画的に総合的な学習が実施され、成果があがっている。	17	13	1	0	3.5	3.6
11 道徳の授業の充実にも努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を、日常的に実施している。	16	14	1	0	3.5	3.6

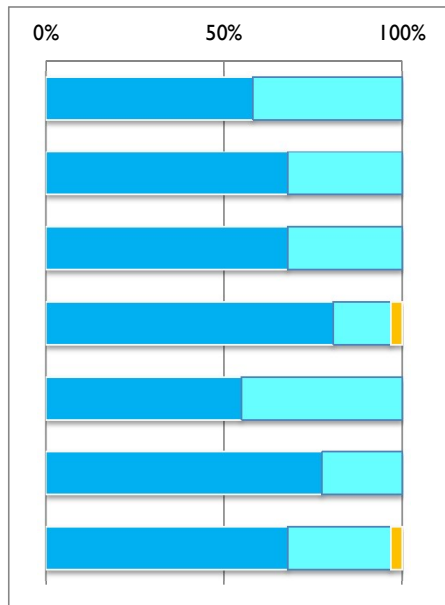


2 教育課程・教科指導についての自由記述

授業の方法は制限ができた分後戻りしているように感じます。手探りです。
 評価については共通認識を図る必要がある。
 生徒の心を耕して他人と思いやる関係を築いていく事が難しい。
 3学年は授業時数の確保のため総合の時間を当てていました。
 コロナの影響で授業数が減っている中で工夫しながら取り組めたと感じている。
 コロナ禍で思うようにできていなかったと思います。
 8はコロナ禍でちょっと難しい感じですが。
 コロナ禍で難しい中でも各教科で取り組んでいると思います。
 10はコロナで事前に考えていたものが違うものになった。これからもう一度よく考えていかななくてはならない。

3 生徒指導・教育相談・特別支援

評価項目	4	3	2	1	評価	
					今回	前期
12 生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している。	18	13	0	0	3.6	3.8
13 いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる。	21	10	0	0	3.7	3.8
14 親との対応や関係諸機関との連携が、スムーズに行われている。(SC, SSW, SS等)	21	10	0	0	3.7	3.8
15 養護教諭やスクールカウンセラーなどと連携を図り、教育相談等に生かしている。	25	5	1	0	3.8	3.9
16 「子弟同行」が行われ、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている。	17	14	0	0	3.5	3.6
17 不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している。	24	7	0	0	3.8	3.8
18 特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて実施されている。	21	9	1	0	3.6	3.6



3 生徒指導・教育相談・特別支援についての自由記述

連携が不十分である。

ふれあい教室の活用が効果的になされている。学年をまたぐ連絡体制をもっと充実できるとよい。

ふれあい教室の設置にあたり学年を問わず先生方に協力をいただき感謝しております。

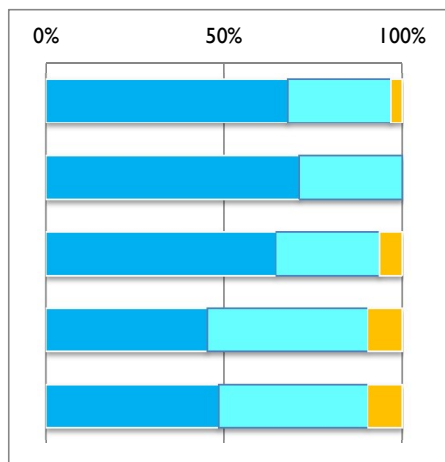
個別の支援計画は保護者の同意を得ておかなければならない。

スクールカウンセラー、ケース会議など生徒一人ひとりに対応するように努められた。

不登校生徒への対応、ふれあい教室の開設、様々な諸問題に対応する未然防止の取り組み等、先生方が手を取り合って取り組まれているように感じます。負担は大きいですが今後も続けてほしいと思います。

4 特別活動

評価項目	4	3	2	1	評価	
					今回	前期
19 学校行事や生徒会活動(学年生徒会)の取組が、生徒の成長(自主性や協調性)や学校生活の充実につながっている。	21	9	1	0	3.6	3.5
20 部活動において、生徒が達成感を得られるよう、活性化するための工夫や配慮がなされている。	22	9	0	0	3.7	3.6
21 合唱を推進する活動が計画的、効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている。	20	9	2	0	3.6	2.9
22 朝のあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている。	14	14	3	0	3.4	3.1
23 今日の健康課題(薬物乱用・エイズ・熱中症等)について、専門機関との連携を図り、授業や講演を通して指導がなされている。	15	13	3	0	3.4	3.1



4 特別活動についての自由記述

様々な生活が制限され例年通りとはいかないもののその中で精一杯のものができた。

合唱を自分自身主体として取り組ませるといことが今年ほとんどできていないです。反省です。あいさつはもっと取り組む方がいいと思います。

コロナ禍でいろいろと難しかったと感じています。

もうすこし挨拶をさせたかったです。

あいさつがさみしい。活性化のため取り組みが必要。

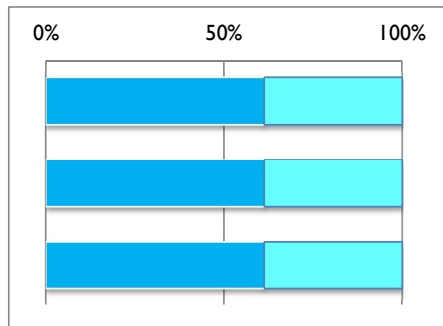
21は計画的ではなく、集団作りができていない。

23について自分はあまりできていません。機会がなかったです。

感染拡大防止のため合唱活動や講演会が例年に比べて実施しづらい状況ではあるができる限り実施する方向で運営がなされているのはありがたい。

5 保護者・地域との連携

学校評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今回	前年同
24 関係諸機関との連携により、外部との信頼の輪が広がり、教育活動や生徒指導に役立っている	19	12	0	0	3.6	3.7
25 生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している	19	12	0	0	3.6	3.7
26 授業参観や学校開放日を適切に設けたり、学校・学年・学級だよりやホームページを活用したりして、学校内の情報を保護者や地域に適切に伝えている	19	12	0	0	3.6	3.8



5 保護者・地域との連携についての自由記述

- ・学校メールをより効果的に活用していきたい。
- ・一部の保護者からはメールをより詳細なものとしてほしいとの意見もある。学校では学校通信、学年通信、通知、ホームページなどを連携させ情報を確実に伝えていく必要がある。

6 26項目以外の自由記述

- ・学校再開から今日まで文部省が示す「新しい生活様式スタイルで校長のリーダーシップの下、生徒・保護者・先生方が一枚岩になって頑張ってきた。無事に2学期を終えることで感謝しています。
- ・コロナウイルス対策を考えた甲西中学校の取り組みは安心・安全を基本にして大きな混乱もなく大変に良かったと思います。生徒がのびのびと学校生活を笑顔で楽しんで学んでいると感じます。優秀な管理職のいる学校は教職員、保護者、生徒も幸せであると思いました。ありがとうございました。
- ・名簿を男女別ではなく性別で区別していない名簿に変えていく方向にできればいいと思っています。LGBTへの配慮という点からも不要な区別は差別意識につながるという点からもまずは簡単にできることから変えていきたいです。
- ・学力向上を目指したい。まずは授業改善から行いたい。
- ・英語、数学の学力向上を目指す上で少人数授業の実施を考えてもいいのではないかと思います。TTに入ってもらってもTTの先生は遠慮してしまうのであまり意味がないように思います。自分自身がTTに入っても他教科だとまったく理解できていなくて教えられることがあります。数学と英語の学力向上に向けて教員の授業改善が一番重要ですが何か他にもできることはないか考えて頂ければと思います。
- ・今まで多くの学校に勤務してきましたがこの学校ほど教職員間（管理職と一般）の関係が良好な学校はないと思う。
- ・不登校生徒が多く担任は大変だと思う。

はじめに

今年度の職員自己評価の傾向を前期と同様の質問を行い、各種の教育実践後の変化を比較した。

後期の自己評価においては、26項目中7項目で前期の値を上回り、数値的な変化は少ないが14項目で下回る結果となった。新型コロナウイルスへの対応が学校教育に影響を大きく及ぼしたのは言うまでもない。生徒の安心・安全を確保するための新しい生活様式は教師・保護者・生徒共に負担となっているが、当たり前のように取り組みを実施できていることに心から感謝したい。

未だ全校生徒が校舎内で集まる取り組みを本校では実施を見送っている。そのため、生徒・保護者、教師の連携の場は大きく減少し、特に保護者や地域の方々が学校教育で協働する場面が削減された。そのような中で2学期は一斉学校清掃、新稲祭体育の部、文化の部（合唱）、学年別合唱発表会、校内強歩大会等を実施方法を工夫し実施した。同時に地域や保護者の方々の参加や協力を得る中で実施することができたことは有意義であった。（具体的にはPTA活動に代わる学校応援団によるボランティア活動や合唱コンクールのリモート視聴、富士川CA TVによる放送新稲祭の放送、白根桃源文化会館でのリモート視聴、学年別合唱等）

1学期にはほとんど実施できなかった部活動は、保護者の参加は見送られているものの通常に近い取り組みが実施されつつあり、前期に比べ評価は大きく向上している。教育課程の実施状況も、水曜6校時授業実施、総合学習の他教科への振り替え、2学期授業期間の6日間延長、授業改善を実施し遅れを取り戻しつつある。以上の実践が可能となったのは担任をはじめとする職員全員の感染症対策実施と家庭の協力があってこそであった。学校経営、組織、安全管理の項目は前回に引き続き、高い評価が行われている。

本校の課題は学力向上と不登校対策である。コロナ禍の深い学びへの取り組みは現在も模索中であるが、国・県及び教育委員会からの支援により、従来考えていた改革を早期に実施できる状況が整いつつある。具体的にはスクールサポートスタッフ、学力向上スタッフの増員によるふれあい教室の創設、プロジェクター・スクリーンの導入による早期のICT活用による授業改善である。今後生徒及び教師に配布されるタブレットの導入により、学び合いやリモート学習への取り組みが一層強化され、学びの形態は大きく変化してくる。準備による職員の負担増で終わらないよう、教育課程を見直し授業改善を具体的にどここの部分で行うのかの目安をつけ、次年度計画を見直し確実な成果を得られるよう準備を進めていく。

1 学校経営・組織・安全管理について

・ほとんどの職員がどの項目においても肯定的な評価をしているものの、前期に比べて評価は3項目で下降している。ウイルス対策は生活の一部として定着しつつあるが、ウイルスの脅威は我々の想像をこえる部分が多く、今後も気を引き締めて取り組まねばならない。日々前線で奮闘している職員に感謝を申し上げたい。

- ・「11学校運営」、「14施設の整備・保守」の項目は評価が非常に高い。
- ・朝の打ち合わせが実施できなくなり、情報共有の確保を課題になっている職員もいる。一方ここまで毎日の打ち合わせを行わなくても通常の業務を行えたという実績も残すことができた。本校はインフォメーションの活用と校務支援システムの活用により通常時より情報の共有を行っている。このコロナ禍では教務と各学年の連携を更に深める中でエラーを補っている。職員同志の普段から行われている情報共有を更に密とすることは、職場の雰囲気向上が要となる。職場厚生を見直し、普段からコミュニケーションをとることができる風通しの良い学校を目指したい。
- ・新学習指導要領や新たな学び方への対応、新型コロナウイルスへの対応、不登校・SNSトラブル等の生徒指導への対応は喫緊の課題である。一人に仕事が偏らないよう、チームで取り組みながら更なる業務改善と協力体制構築に取り組む必要がある。スクールサポートスタッフ、学力向上スタッフ、学校応援団、関連機関の協力を得ながら柔軟に取り組む必要がある。
- ・「5リスクマネジメント、クライシスマネジメント」に関しては、養護教諭、生徒指導主事を中心に取り組みまれコロナ対策はここまで適切に実施され感染を防いでいる。東京を中心とした地域で依然感染が拡大しているので気を緩めず取り組みを強化していきたい。

2 教育課程・教科指導について

・前期に比較して「8校内研究の柱である少人数による学び合いを取り入れた授業改善の取組」について評価が向上した。しかし、主体的・対話的で深い学びの実践はコロナ禍で制限が出た分後戻りしてしまったと感じている職員もいる。校内研究で取り組んだ家庭学習の取組の実態を見極め、家庭との連携を一層深める策が必要がある。

授業で行われている、目標の提示や振り返りは各教科定着している。話し合い活動や学び合いも各教科の実践が目立つようになってきた。しかし、短縮授業の実施やコロナ禍での授業時間確保への対応により、十分授業内容を振り返る時間が取れない場合も多い。学校全体で振り返りを帰りに実施している学校もあり本校でも研究を深めていきたい。

・本年度は小中連携に関する会議はほとんど行えなかった。特に限られた時間で教育課程を実施していく場合小中の教育課程の系統性を踏まえて取り組むことが重要である。小学校の基礎を踏まえて中学校で発展させることは学力向上の大切な手段となり、同時に不登校の原因となっている中一ギャップへの対策にもつながる。総合学習や道徳、生活習慣や規律までふくめて小中で連携を深め、更に小中一貫の教育課程を計画的に実施していくことが、良い意味で効率化を生むと考える。(今年度見送った小中連携の取組 ①小中連携会議本年度4回程度 ②相互の校内研究参加(大明小研究発表は参加) ③文化発表会への中学生の参加 ④あいさつ運動 ⑤中学生による陸上競技指導 ⑥合同教育講演会)

・令和2年度内には一人一台タブレットが導入される。話し合い活動や発表の方法、課題の出し方等今までとは異なる形態で実施することが可能となる。パソコン室導入時にも教師のスキルや意識が大きな課題となった。この大きな変革は避けられず、コロナの影響により緊急活用も考えられる。教師の負担とならぬよう、早期に研究会や学習会を開催し対応していく。

・来年度から新しく3観点評価により教育課程が実施されていく。懇談時には例年評価の方法についての質問がでており、保護者や生徒に分かりやすい評価の基準や実施方法を工夫していく必要がある。現在、校務支援システムにより教科担任から課題のある生徒の取組を担任に提示する取組も実施されているが全教科の取組となっていない。説明責任を果たし保護者の信頼を得るためにも全教科の取組としていく方向で検討しなければならない。(現在の実施率 教務1/1人 1年4/8人 2年3/7人 3年0/6人 全体8/21人 38%の実施率でした。)

・「11道徳教育の充実」「10総合的な学習の充実」「7キャリア教育」について、評価は若干下降した。特に総合学習の集大成である校外学習、修学旅行、職場体験学習はまったく行えていない。また、生徒の自己肯定感は依然として低い傾向があり、人の嫌がる行為を軽はずみに行ってしまったりトラブルもある。各種の体験を通して学ぶ機会は生徒にとって自己を見直し他人との共存を経験する重要な機会である。本年度不足した分も考慮しながら生徒の生き抜く力を育成していかねばならない。

3 生徒指導・教育相談・特別支援について

・昨年度に引き続き、問題行動は少ない。しかし、コロナ禍におけるSNSのトラブルが増えており、1年の情報集会実施はかりでなく、普段の授業から携帯電話の使い方の指導を実施している。また、通知や懇談時に保護者の協力を依頼し取り組んでいる。

・「12報告・連絡・相談」「13いじめ」「14関連機関との連携」「15教育相談」「16子弟同行」「17不登校」に関しても評価は若干下降した。不登校生徒数は、現在13人で昨年度より微減、いじめは認知されたものは12件で大きく減少した。冷やか、からかい、暴言、SNSによるものなどがあり、1件は取組中である。いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」はおこっていない。今後も改正した「学校におけるいじめ防止基本方針」を全教職員で確認し、生徒指導部会を中心に組織的な対応に努めていきたい。

・「15養護教諭やスクールカウンセラーとの連携」への評価は非常に高い。不登校や特別の支援が必要な生徒の対応についてケース会議や個別の事例を踏まえた支援会議を本年度も実施している。不登校生徒や保護者がカウンセラーと信頼関係を築くことができ、登校できないことにとらわれず解決を模索する保護者の前向きな姿勢を感じる。多様化する生徒の課題をこうさいつこ調査や二者懇談、三者懇談、健康調査、デイリーライフの複数教員での添削など様々なアプローチされている。

4 特別活動について

・「21合唱活動」は、コロナによる様々な制約がある中でもコンクールを目指しておこなわれなんとか発表会まで実施することができた。マスクや手指消毒、3密回避の練習などできうる対策を実践していただいたなかでの成功であったと考える。今後再び非常事態宣言がだされるような状況では生徒や教師の負担を考えると今がぎりぎりの実践でもある。本年度この環境下で子供たちのために実践された先生方には本当に感謝したい。

昨年度まで実施していた合唱指導の専門家による学習会が実施できなかった。また、市川高校の演奏を鑑賞し先輩から学ぶ機会も失われた。若い教師が増えているので、来年度には例年以上に質の向上を意識した取り組みを計画していかなければならない。

・「19学校行事や生徒会活動」「20部活」「21合唱」「22あいさつ運動」「23健康課題についての授業や講演」等の学校行事や生徒会活動については本年度は縮小した取り組みが行われた。後半の強歩大会、合唱や生徒会選挙を通して生徒の自主的な取り組みが徐々に増えてきており評価はすべて前期を大きく上回った。一方、あいさつに関して少ないと感じる教師は少なくなく、生徒会活動を活性化するなかであいさつが盛んな学校づくりに取り組んでいく。

一部の保護者からはあいさつがないとの意見をもらったが、保護者・生徒の自己評価からはあいさつが徐々に向上してきていることがわかる。

・部活動については、二学期はほとんど正常に活動を行うことができた。安全との両立に取り組むことで職員・保護者に大きな負担をお願いする中での実践であり無事行えたことに感謝したい。

・「23今日的な健康課題」については、保健委員会や給食委員会が食育と感染症予防、熱中症予防啓発運動に取り組むことができた。

5 保護者・地域との連携について

・「24関係機関との連携」「25 26保護者との連携」については、例年行われている講演会、授業参観を行うことができなかった。しかし、合唱発表に関しては各学年工夫し体育館とホールの2度発表を行うことで甲西中の取り組みの一端を紹介することができた。学校通信、学年通信、学級通信、保健通信、図書通信を計画的・定期的に発行し情報公開に努めている。また、メールとホームページを活用し、情報発信を行うことで保護者への情報提供を確実に行った。

・「24関係諸機関との連携」については、スクールサポーター、警察、安全協会、子育て支援などに生徒指導面で支援していただいた。特にSNSトラブル未然防止の取り組みとして南アルプス警察署によるSNS危険防止放送や1学年へSNS防犯講演会を実施した。また、市の福祉総合相談課とコーディネーターが中心となり随時情報交換を行い、特別な支援を必要とする生徒への対策会議を実施し必要な支援を実施している。本年度は、学校応援団を授業、奉仕作業、協力員として募集し、夏季の学校清掃作業、強歩大会の安全・苦情を含め、保護者が学校に連絡をしていくことは、保護者との連携を深めるチャンスとしてとらえ、今後も保護者の声を聴く姿勢を大切にしながら、その対応に努めていきたい。

6 26項目以外について

・若い職員の増加、新学習指導要領完全実施、新しい3つの観点による評価、GIGAネット導入等学校現場は大きく変化している。更に本年度は新型コロナウイルスにより授業時間への制約が厳しくなり空き時間を返上しての授業実施は現在も続いている。また、主体的、対話的で深い学びへのアプローチには普段以上の工夫が必要となる状況である。夜遅くまで教材作成や採点に時間を費やしている職員は依然多く、教育課程の達成と同時に「学力向上」を目標に日々職員は奮闘している。

・プロジェクター、スクリーンの早期導入により、授業実施の負担軽減や学び合い・学習の共有が行われている。特に若い教員はICTの活用に積極的にあり、振り返りや情報提示を効率的に行う中で深い学びへの取り組みが積極的に行われている。

・学力向上支援スタッフ、スクールサポートスタッフの増員、TT授業の実施により生徒への支援をより手厚く行うことができていく。特に通常学級で学習のつまずきに対応する場面が増えることで保護者や生徒のニーズに幅広く対応できるようになった。また、本年度創設したふれあい学級は全職員の協力の下、多人数の授業に対応できない生徒や不登校生徒等に対して状況に応じた授業を実施することができている。

・本校は若手教員と中堅教員が明るく元気に学校教育に当たり、非常に活気ある授業や行事が実践されている事があげられる。コロナ禍の授業や行事を制約の中でベストとなる取り組みを工夫する意欲と行動力がとても素晴らしい。また、その環境を支えているのが、長期的な視野をもったのぞむ各主任やOJTを実施するベテラン教員であったと考える。校長のリーダーシップの下「すべては子ども達のために」を日々実践しつづけている。

・コロナ禍ではあったが、新稲祭の体育・文化の実施、部活動や通常授業の実施、強歩大会の実施が行えたことは大きな成果である。今後、継続して安全対策に万全を期し、安心安全な学校を実現するなかで、生き抜く力の育成、個性の伸長、進路実現に取り組んでいく。合唱発表会では実施しなかった3学年合唱が保護者発表会で披露されたときの3年や保護者の思いを忘れず、残された3学期と卒業式に向け職員一同全力で取り組んでいきたい。

・今後、教育の質を維持、向上させるために、まだまだ不足している自主的な生徒活動の促進に取り組むことや、一人ひとりの生徒の個性を伸ばさせ、進路実現にむけて取り組むこと、他人の心の痛みをわかる豊かな人間性の育成に取り組まなければならない。

メモ